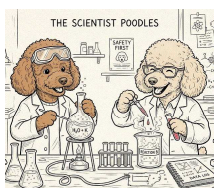


さくら



令和8年9月14日(月)

「分からない」からおもしろい



昔に比べて科学が発展した現代においても、未解明のことからは山ほどあります。あくびが伝染する確実な理由は分かっていません。共感能力や脳の冷却効果などが仮説としてありますが、決定打はありません。手術時の全身麻酔で、麻酔薬がなぜ脳の意識を消失させるのか、その正確な分子レベルのメカニズムは解明されていません。猫が喉を鳴らすメカニズム、それを制御する中枢神経の仕組みや、なぜあの音が鳴るのかの理由は謎のままです。このような、身近な「未解明事案」のひとつに睡眠があります。

睡眠についての研究は、専門の研究者が日夜取り組んでいます。「動物はなぜ眠らなければならないのか」という疑問はいまだに解明されていません。そんな中、睡眠研究の第一人者である 柳沢正史 教授（やなぎさわ まさし・筑波大学）が、ラスカー賞（ノーベル賞の登竜門と言われている）を受賞しました。受賞理由は「オレキシシン」の発見。オレキシシンは覚醒にかかわる神経伝達物質です。欠乏すれば、日中に強い眠気に襲われる睡眠障害「ナルコレプシー」を引き起こします。また、新たな睡眠薬や世界初のナルコレプシー治療薬の開発へ道を開いた功績は偉大です。

28年前、柳沢教授は動物の脳内から新たな物質を発見しました。当初、この物質は食欲と関係のあるものだと考えていたそうです。そこで、この物質名を、ギリシャ語で食欲を意味する「オレキシス」から「オレキシシン」と名づけました。ところが、研究を進めていくと睡眠障害に関係のある物質であることが分かりました。この研究は、睡眠の本質に関わる研究の大きな糸口です。このような、基礎研究の積み重ねが科学の進歩には必要です。

しかし、日本では研究費がなかなか確保できない（国の支援も減っている）など、基礎研究の軽視は否めない事実です。科学立国日本として、基礎研究の支援に力を注いでほしいと思います。

科学はおもしろい。分からないからこそ真実をつきとめたい。皆さんの中から、科学の力で人類に貢献してくれる人が出てきてほしいと思うのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

